



(僧侶は貨幣を持つことが禁じられており、生活に必要最低限のものを施しに頼って生活する)

早朝、部屋のカーテンを明け放ち、見下ろせば、いつもの光景がある。
オレンジ色の袈裟を身にまとい、銀色の鉢を小脇に抱え、通りを裸足で歩く僧侶達の姿である。
そして、歩道に待ち伏せた人々が、食べ物を鉢のなかに寄進する。
その間、お経が唱えられたり、挨拶や会話があっている。
その様子を真近に見るため、今日は通りに出かけてみた。
一人の僧侶を追ううちに、寺院に向かう小さい路地に入った。
小店からオバちゃんが出てきて、ご飯が入ったビニール袋を小鉢にいれた。
そして、僧侶のお経に耳を傾け、手を合わせしっかり祈る。
その傍を大声をあげながら通り抜ける生徒たち。
何の変哲もない、いつもの朝なのだろう。